

地域医療に関する取り組みについて (持続可能な地域医療を考える会 中間報告)

令和6年1月21日(日)
舞鶴市長 鴨田秋津

舞鶴市の地域医療の変遷

明治時代～戦中（3病院）

- ・舞鶴鎮守府海軍病院（1901年／明治34年）（現舞鶴医療センター）
海軍の傷病兵士の治療に当る海軍専用の病院
- ・舞鶴海軍工廠職工共済会病院（1907年／明治40年）（現舞鶴共済病院）
海軍工廠の組合員およびその家族を診察
- ・財団法人海仁会病院（1940年／昭和15年）（現舞鶴市民病院）
旧海軍の軍人及び軍属の家族を対象に診療

戦後～昭和（4病院）

- ・国立舞鶴病院（現舞鶴医療センター）
- ・舞鶴共済病院
- ・舞鶴赤十字病院 ※西地区住民の要望により1953年（昭和28年）に設立
- ・舞鶴市民病院

このような歴史的背景のもと、かつての舞鶴市は、約10万人の人口に対して4つの総合病院が医療を提供し、全国的にも大変恵まれた医療環境を誇り、隣接市町村からの流入患者を含めると、15～20万人の診療人口に対して医療を提供する京都府北部における医療の要所とされてきた。

平成における激動期

①市外からの流入患者の減少

平成の時代になり、舞鶴市周辺の全ての市町において、中核となる病院の整備や機能強化が行われ、舞鶴市内への流入患者数は減少した。

(近隣市町における主な病院整備・機能強化)

綾部市（1990年／平成2年）

株式会社ガンゼの会社の病院であったガンゼ病院を綾部市立病院として整備（病床150床）

福知山市（1993年／平成5年）

国立福知山病院の経営移譲を受け、福知山市民病院として開設（病床300床）

与謝野町（1994年／平成6年）

府立与謝の海病院を総合病院化（病床240床）、2003（平成25）年には、府立医科大学附属北部医療センターとして開設

平成における激動期

②舞鶴市内公的4病院における様々な変化

舞鶴医療センター

独立行政法人化され、国立舞鶴病院から「舞鶴医療センター」に名称変更（2004年／平成16年）

舞鶴共済病院

新館新築（1994年／平成6年）、管理棟その他改修（1995年／平成7年）

舞鶴赤十字病院

本館・南館全面増改築（1998年／平成10年～1999年／平成11年）

舞鶴市民病院

2004年／平成16年の内科医の集団退職と、同年に始まった新臨床研修医制度などの影響により、その後も市民病院では医師確保が困難となった。

③舞鶴市人口の減少

少子高齢化に伴う市内人口の減少に伴い、各病院の患者数が減少

舞鶴市の地域医療の変遷④

時期	内容
平成16年	市民病院内科医の集団退職
平成18年	市民病院における医師確保が困難となり、大きく規模を縮小して民営化を検討
平成19年5月	舞鶴地域医療あり方検討委員会を設置（将来の医療体制のあり方を検討）
平成19年11月	あり方検討委員会から、将来にわたり持続可能な医療提供体制を確保していくには、「4つの公的病院を1つないし2つにすることが望ましい」とした答申が出される
平成21年1月	あり方検討委員会の答申を受け、公的4病院の再編について協議する「舞鶴市公的病院再編推進委員会」を設置
平成21年4月	再編推進委員会において、まずは公的4病院を急性期基幹病院と慢性期サテライト病院の2つに再編、最終的には急性期基幹病院の1つを目指すとする「グランドデザイン案」を作成。
平成22年1月	グランドデザイン案をベースに京都府が作成した「中丹地域医療再生計画」を国が承認。地域医療再生基金25億円の交付決定。

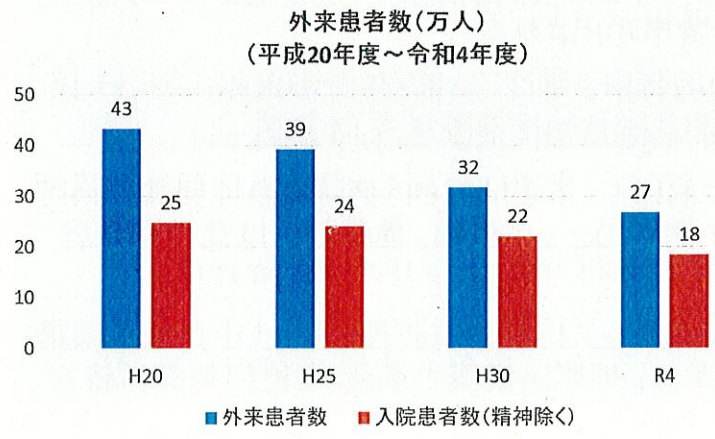
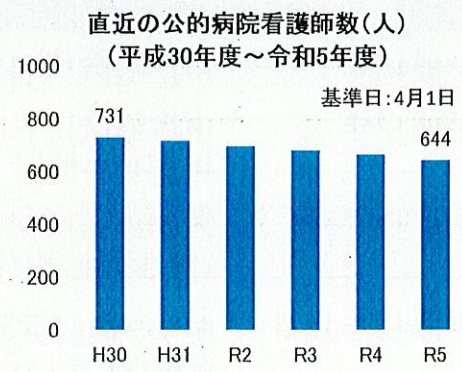
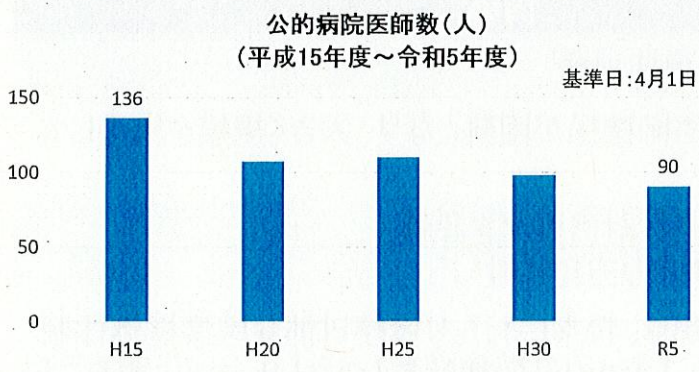
時期	内容
平成23年6月	市長交代により、中丹地域医療再生計画の見直しに係る関係者会議
平成24年3月	中丹地域医療再生計画 修正案の承認 (新たな中丹地域医療再生計画「あたかも一つの総合病院」)



- ✓ 東西地区の医療バランスに配慮
- ✓ 公的4病院の特徴的な機能を充実して病院間の連携を強化
- ✓ 各病院間、病診間の連携を強化するための地域医療連携機構を設置

7

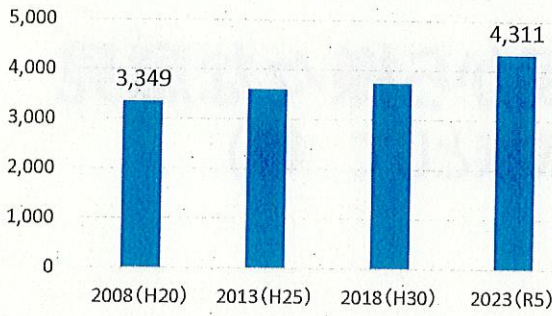
公的4病院における患者数、医師数、看護師数の推移(舞鶴市調べ)



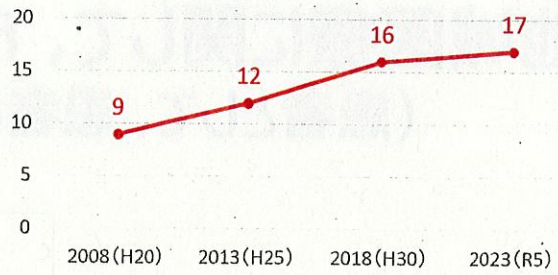
✓ 人口減少に比例して、患者数(症例数)も大きく減少すると同時に、医師や看護師など、医療の担い手も減少している。

8

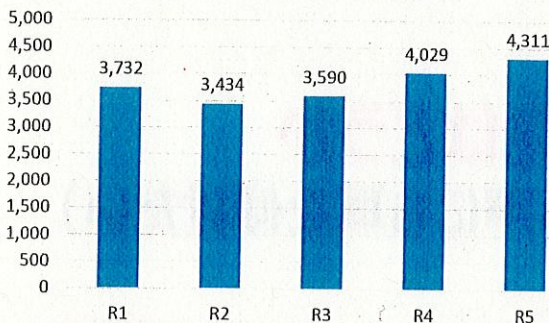
救急出動件数(15年前からの比較)



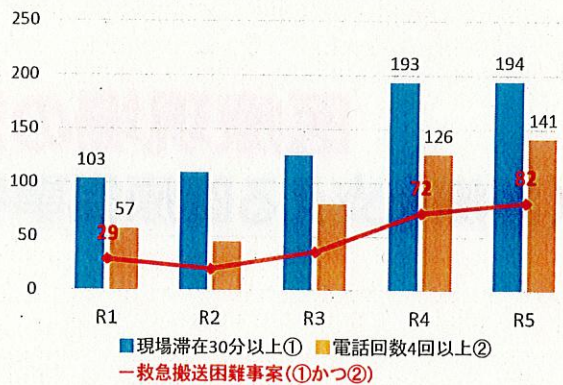
平均現場滞在時間(分)
(15年前からの比較)



直近6年間の救急出動件数



直近6年間の救急搬送困難事案(件数)

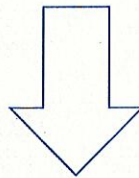


✓ 医療従事者は減少する一方、救急患者対応は増加している。

現在の市の取り組み

(持続可能な医療提供体制の確保に向けて)

地域医療に関して、市民から様々な意見 (患者として、患者の家族として 等)



医療現場の意見はどうか (医療を支える医療従事者の声にも耳を傾けたい)

11

持続可能な地域医療を考える会の開催(令和5年5月～)

会の概要

1. 目的

市民から寄せられた地域医療に関する意見や、公的病院長等と個々に交わした意見交換を踏まえ、市長、公的4病院長、医師会長が一堂に会し、医療現場の現状や直面している現状課題を共有するとともに、本市の地域医療を持続可能な形にしていくための対応策について協議する。

2. 参加者

舞鶴市長	鴨田 秋津
舞鶴医療センター 院長	法里 高
舞鶴共済病院 病院長	沖原 宏治
舞鶴赤十字病院 院長	片山 義敬
舞鶴市民病院 病院長	井上 重洋
舞鶴医師会 会長	隅山 充樹
ほか各機関事務方	

開催経過

◆ 第1回 (5月31日) 「医療現場で直面している現状課題」

(言及された事項)

- ・各病院における状況
- ・救急医療
- ・看護人材不足
- ・災害時における対応
- ・患者情報共有の推進
- ・医師や看護師同士の関係構築

※これらに加え、話題は中長期的視点に基づく地域医療の根幹的な議論の必要性にも及んだ。

- ◆ 第2回 (8月8日) 「看護人材の確保」
- ◆ 第3回 (11月6日) 「救急医療等」
- ◆ 第4回 (12月15日) 「災害時医療」



12

看護人材の確保 (第2回考える会)

13

看護人材の確保

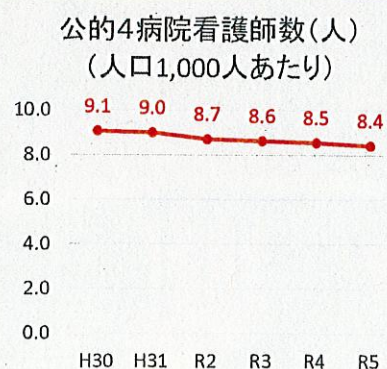
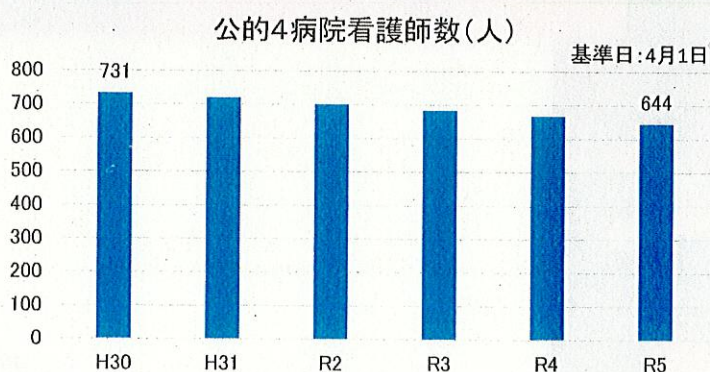
第2回考える会(令和5年8月8日) ※各病院看護部長も同席

【課題】

- ✓ いずれの病院も看護人材の確保に大きく苦慮。特に夜勤人材の確保が喫緊の課題

【看護師確保策として】

- ✓ 看護学生の積極的な実習受け入れ
- ✓ 中高生への働きかけ ※将来の人材確保
(看護職の魅力発信、病院や地域そのものの魅力を高める)
- ✓ 現在従事している看護人材が長く働き続けられる視点
- ✓ やりがいを感じながら、働きやすい労働・職場環境を整備していく必要性

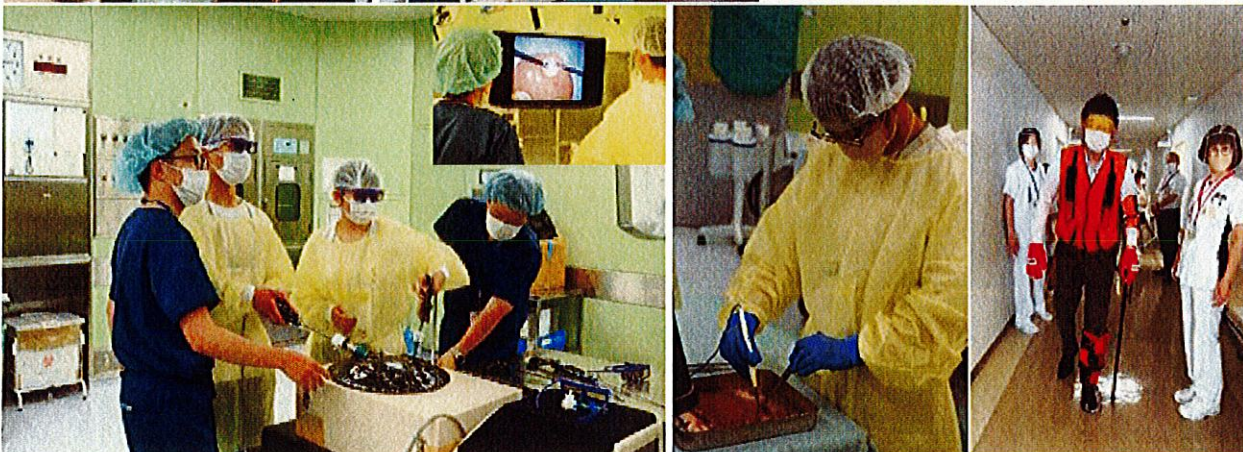


14

◆中高生医療体験イベント「ミッションインホスピタル5」



日時 令和5年8月6日(日)
場所 舞鶴共済病院
参加者 90名
(中学生61名、高校生29名)
※定員100名は1週間で受付終了



◆京都府立医科大学 医学科生、看護学科生との懇談

日時 令和5年8月30日(水)
場所 舞鶴赤れんがパーク
参加者 京都府立医科大学 22名
医学科生(5年生15名)
看護学科生(3年生7名)



◆日星高等学校看護科生との懇談

日時 令和5年11月14日(火)
場所 日星高等学校
参加者 看護科生9名
(1年生から5年生)



看護師確保策の検討(看護部長会議)

公的病院看護部長会議

- | | |
|--------|---------------------|
| (8月8日 | 第2回持続可能な地域医療を考える会) |
| 10月6日 | 第1回看護部長会(現状共有) |
| 11月7日 | 第2回看護部長会(確保策に関する議論) |
| 12月21日 | 第3回看護部長会(具体的検討) |

【現状】

看護師不足 → 1人あたりの負担増 → 看護師の疲弊 → 離職
(全国的な課題)

【新たな看護人材確保策(視点)】

- ✓ 設置母体の異なる公的病院が複数所在する舞鶴の特徴を生かす
- ✓ 持続可能な確保対策(看護師の負担軽減)
- ✓ 地縁のない学生への働きかけも視野に入れて

→現在、人材確保に関する連携プログラムを検討中

令和6年3月2日「まいづる春の就職フェア(於:商工観光センター)」にも4病院が出席
令和6年3月16日「看護職就職・就学フェア(みやこメッセ:京都市内)」にも3病院が出席
※医療職を目指す学生への周知にご協力をお願いします。

医療職を志す学生への支援策(各病院、舞鶴市)

- 学生向け奨学金制度(一定の条件を満たせば返済免除も可能)
 - ・看護学生向け(各病院ほか)
 - ・医学生向け(舞鶴市ほか)

- 看護学生、薬学生向け
 - ・各病院における実習、インターンシップの受入

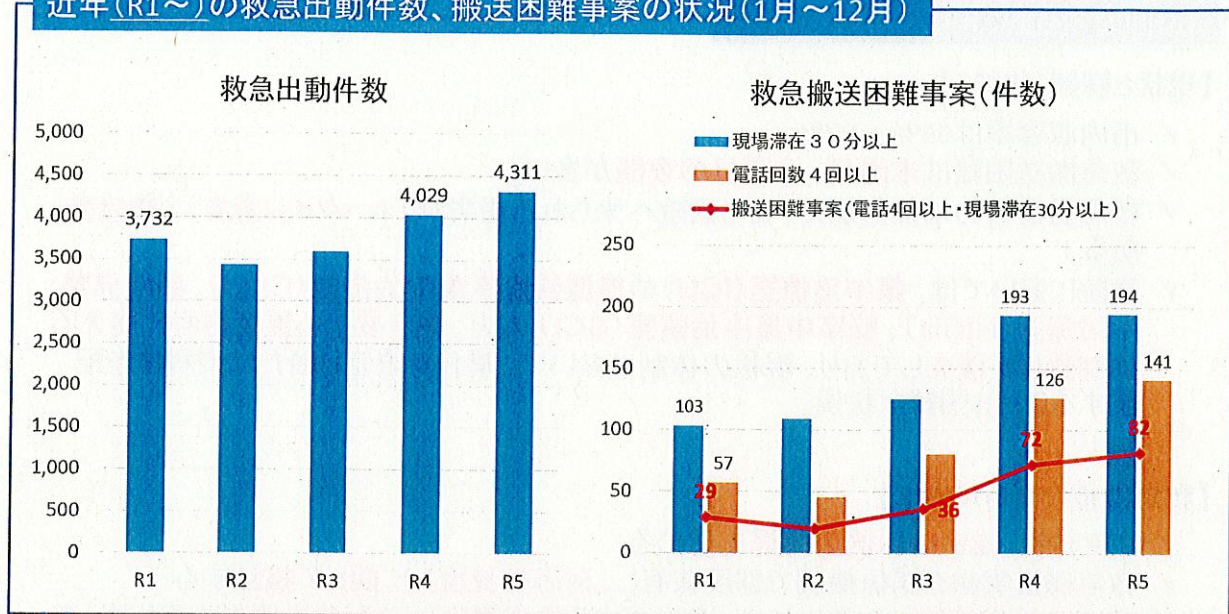
- 中高生向け
 - ・医療職の具体イメージ化(医療体験イベント)

医療職に関心を持つ中高生の割合は多い。
行政・病院・学校とも密な連携を(そして地域の理解を)

19

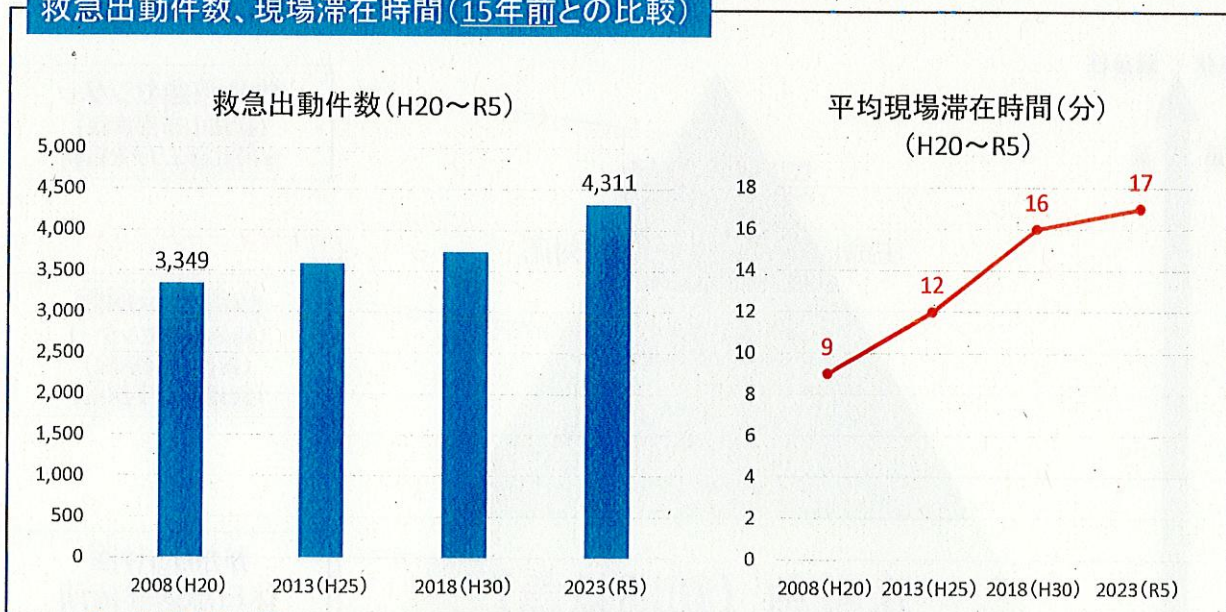
救急医療 (第3回考える会)

近年(R1~)の救急出動件数、搬送困難事案の状況(1月~12月)



- ✓ 近年の救急出動件数(救急車)は、令和2年、3年で減少したものの、令和4年から4,000件を超えている。
- ✓ 救急搬送困難事案(現場滞在時間30分以上かつ医療機関への照会回数4回以上)は令和3年から増加傾向にある(令和5年は82件)。

救急出動件数、現場滞在時間(15年前との比較)



【15年前(2008年)と比較して】

- ✓ 救急出動件数は、約1,000件増
- ✓ 救急出動時における救急車両の平均現場滞在時間は8分増

第3回考える会(令和5年11月6日)

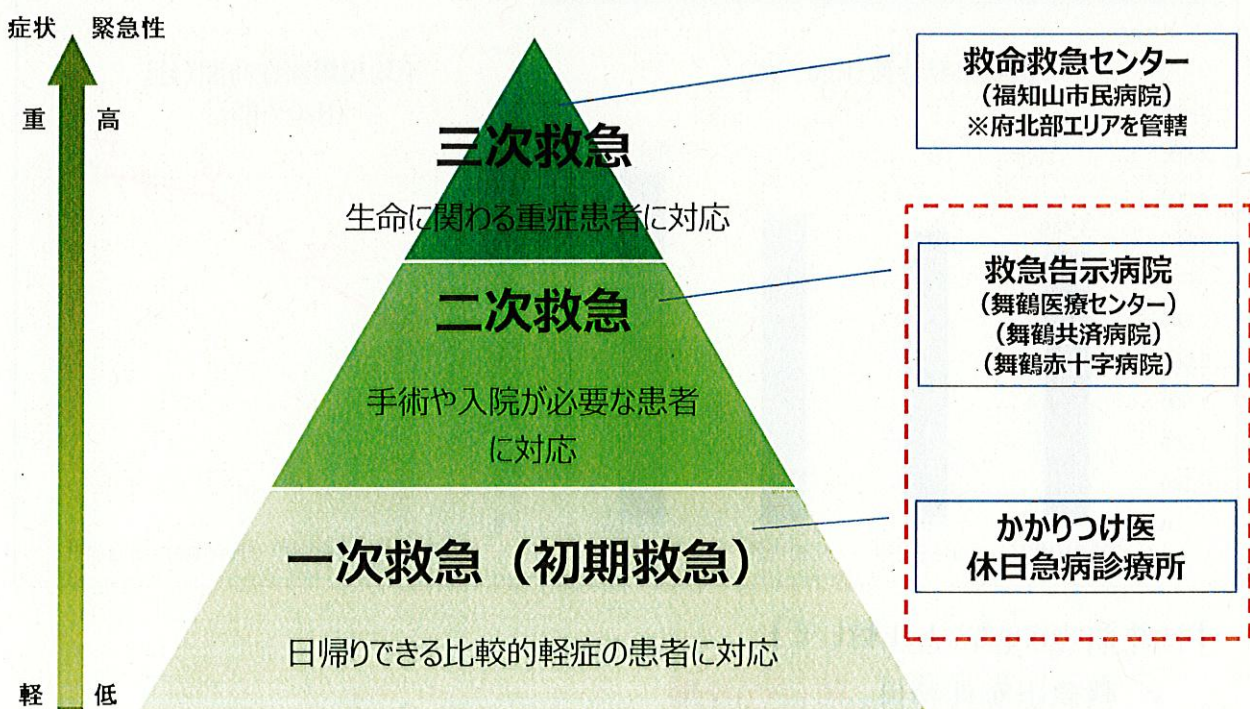
【現状と課題(抜粋)】

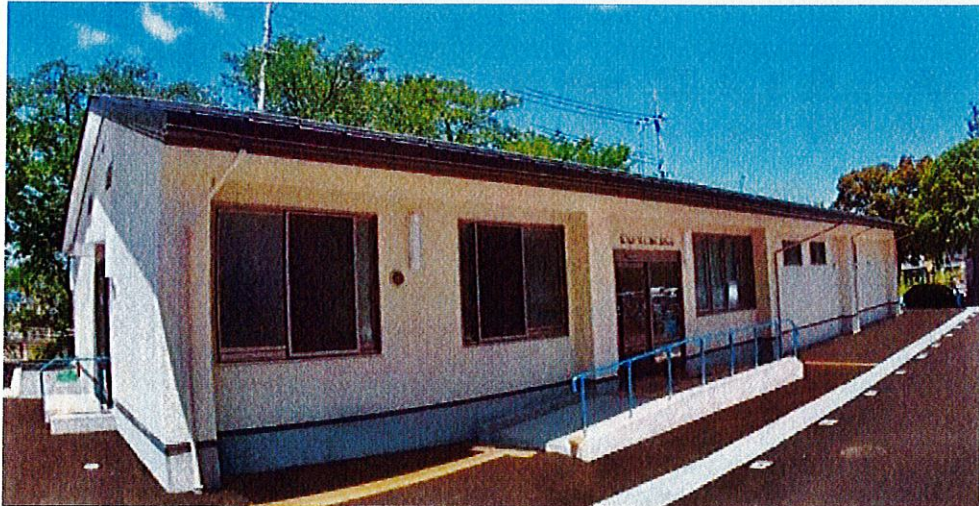
- ✓ 市内収容率は96%~97%。
- ✓ 救急搬送困難は**木曜日、金曜日の夜間**が多い。
- ✓ 救急搬送数の増加に加え、自ら病院へ来られる患者(**ウォークイン患者**)も相当数ある。
- ✓ 病院においては、**集中治療室(ICU)**や**循環器疾患集中治療室(CCU)**、**新生児集中治療室(NICU)**、**脳卒中集中治療室(SCU)**など、**急を要する重症患者に備える体制整備を優先**しており、現状の体制において、曜日を限定し新たに内科医を配置することは困難な状況。

【救急医療を守るために】

- ✓ 引き続き、**総合内科医の確保**に努める
- ✓ 救急搬送実績を関係機関で都度共有し、**対応の見直し**に関して検証する
- ✓ **病院の診療時間外**においては、急を要する**重症患者への対応を優先**するため、普段から、**かかりつけ医の診察時間を確認し、早めの受診**を心掛けること、また**電話相談**や**休日急病診療所**の利用について周知啓発に努める。

救急医療 (一次救急、二次救急、三次救急)





場所 舞鶴医療センター敷地内
 開設者 舞鶴市
 協力 舞鶴医師会、舞鶴薬剤師会等
診療科 内科（軽症患者）
 開設日 毎週日曜日
 （受付9時～11時30分、13時～16時30分）
 備考 R4患者数822名、R5患者数827名（R6.1.14現在）

	日曜当番病院における 平均内科患者数(昼)
休日診療所 開設日	8.3人
休日診療所 開設日以外	22.1人

令和2年10月1日スタート

救急車を呼ぶ？ 病院へ行く？ 轢子を見る？ 「急な病気」や「けが」で迷ったら

救急の電話相談窓口 24時間 365日

- 看護士がアドバイス
- 医療機関も案内
- 全年齢で相談可

明番電話・フレッツ回線（075-661-5596）

#7119

または ☎0570-00-7119

小児の「急な病気」や「けが」は…

#8000

☎075-661-5596

※ 市内に15歳未満の子供や家族等
 午後7時～翌朝8時 ※JIS 075-661-5596
 小児科医・看護師の専門的対応や育児相談も可

これらの電話は、あくまで看護師等による相談・助言を目的とするものです。自身が緊急と思ったときは、ためらわず119番で救急車を呼んでください。

救急安心センターきょうと 運営団体会（伊根町 京都府健康福祉局管内）

子どもの急な病気に困ったら、すぐ電話!

#8000

看護師、医師が対応します!

病院や診療所が閉まっている時でも安心。急な発熱など子どもの急病時、受診した方が良いのか、様子を見ても大丈夫なのか、看護師または小児科医が電話でアドバイスします。

ダイヤル回線・IP 電話の場合、また笠置町と南山城村の全域・西京区と伏見区の一部地域は075-661-5596に直接ダイヤルしてください。

相談時間 平日・日曜・祝日：午後7時～翌朝8時
 年中無休 土曜（祝日を除く）：午後3時～翌朝8時

※ 京都府

※状況によっては、ためらわずに救急車を呼ぶことも大切

「こんな時どうするの？」

子どもの急病への 対処法

「かかりつけ医」を
持ちましょう

コンビニ受診は
控えましょう



小児医療の
虎の巻



もくじ	上手な受診を…1~6	咳 …… 14	誤飲・誤嚥 …… 21
	発熱 …… 7~8	呼吸 …… 15	やけど、鼻・耳のトラブル… 22
	嘔吐 …… 9	鼻汁 …… 16	薬について …… 23
	下痢 …… 10	腹痛 …… 17	ケア …… 24~26 (スキンケア、洗腸、薬の飲ませ方、 赤ちゃんの鼻づまり)
	経口補水 …… 11	頭部打撲 …… 18	予防接種 …… 27~28
	脱水症状 …… 12	泣きやまない …… 19	備えあれば憂いなし …… 29
	けいれん …… 13	食物アレルギー…20	

子どもの様子が おかしかったら…

お父さん、お母さん、まず、落ち着きましょう
そして、子どもの様子をしっかり見ましょう

熱は何度ですか？ 様子は？ うんちの状態は？ ごきげんは？



かかりつけのお医者さんか、

#8000(京都府小児救急電話相談) に相談しましょう
#7119(救急安心センターきょうと)

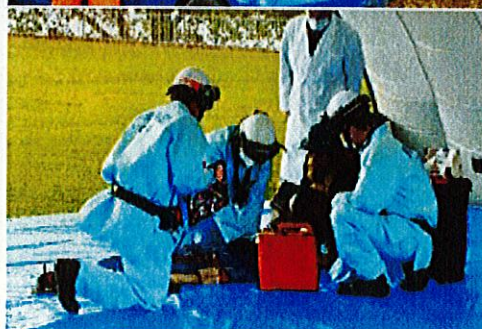
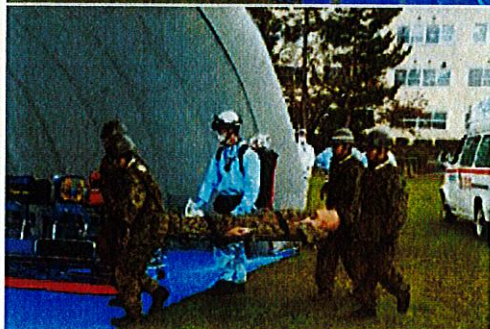
災害時医療 (第4回考える会)

29

災害時医療(10月29日舞鶴市総合防災訓練)

【訓練内容】

- 被災想定 若狭湾内断層を震源とする地震
(マグニチュード7.2、市内の広範囲で最大震度6強)
- 救出場面 ①倒壊家屋、②倒木土砂による生き埋め、③事故車両(窓の開放不能)
- 対応 救護所テントでトリアージ、応急処置、搬送指示(医師会隅山会長、肥後先生)

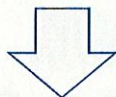


30

第4回考える会(令和5年12月15日)

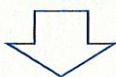
【今後の検討事項】

- ✓ 多数の疾病者、負傷者が生じた場合における各病院への効率的な搬送方法
- ✓ 自院が被災した場合の病院間連携・患者搬送
- ✓ 災害時を想定した平時からの訓練、情報連携 など



市と公的病院間において、
災害時における相互連携に関する覚書の締結へ

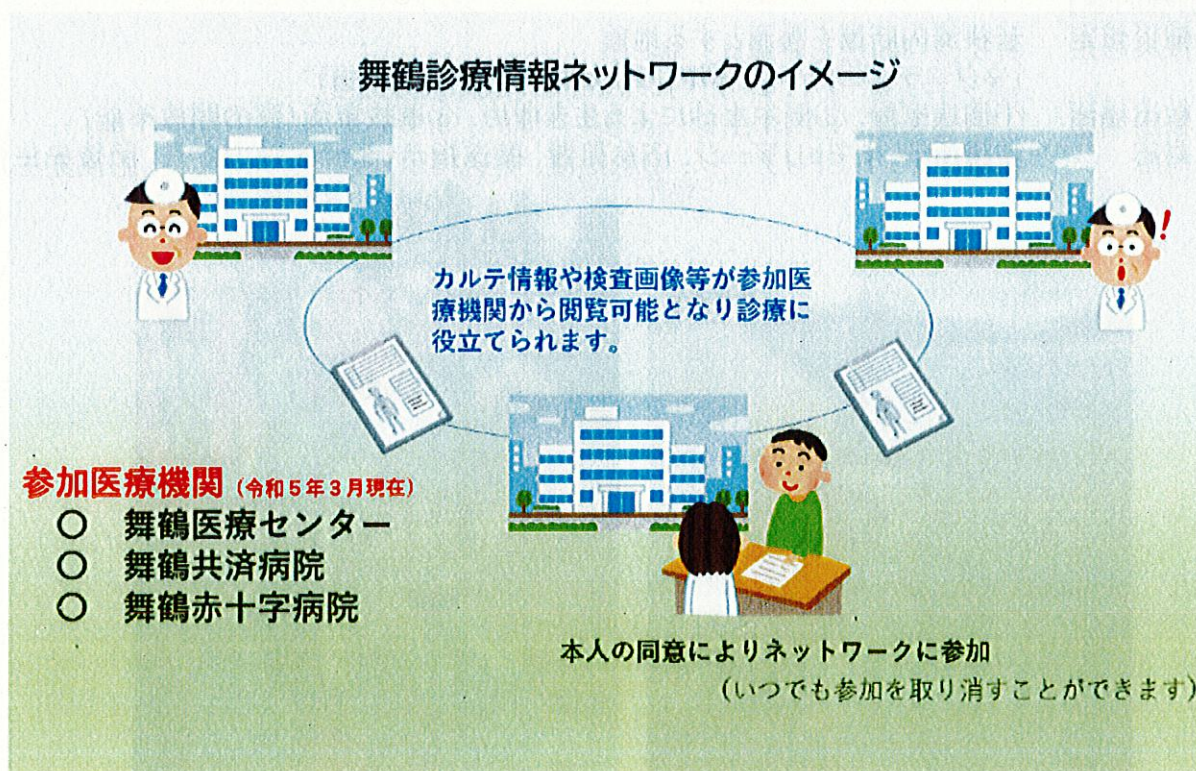
平成13年12月 舞鶴市と舞鶴医師会において、災害時等における医療救護活動に関する協定を締結
(災害時及び事故時における医療救護活動)



総合防災訓練を通じて、さらなる連携強化に向けた検証へ

31

参考(舞鶴診療情報ネットワーク)



※市民病院も年度内に参加予定

32

必要な医療を受けられる地域であり続けるためには、
様々な視点(現在・未来、立場、大局)を考慮した取組が必要



医療従事者(提供側)、行政に期待される役割は何か
そして、市民にできることは何だろうか
※限られた医療資源(人材・施設等)をどのように維持・確保していくのか

**市民の皆さんにも医療の現状をお伝えし、
10年後、20年後の未来においても、
安心して受けられる医療提供体制を確保したい。**

